

ホスピスの見学で感銘

左京区・東崎すみ子(医療事務・52)

ホスピスとは、末期患者の身体的な苦痛を軽減し、治療ではなく残された時間を充実して生きることを目的とする施設と言われています。私は先日、長い坂道を上ったところに建つ病院に行き、闘病中の母についての相談と施設の見学に行ってきました。

ホスピスには暗いイメージを持っていましたが、明るい院内と病室、四季の移り変わりが実感できる中庭や、患者の余生に真摯に向き合う病院の姿勢に印象は一変しました。

多くのボランティアが患者さんを支えているようで、私が訪問した時にはサ

ロンコンサートが開かれました。患者さんたちと一緒にオカリナの演奏を聴きましたが、楽しく、時には切なく響く演奏は心にしみ入りました。最後に演奏された「いつも何度でも」では、私が好きで「生きている不思議、死んでいく不思議」

の歌詞が思い浮かび、思わず涙がこぼれました。いつか、長い坂道を母と一緒に再訪する日が来るのかどうかは分かりませんが、穏やかな表情の患者さんたちと聴いたオカリナの演奏は、この秋の忘れられない風景になりました。



宇治市・木崎 末子
(無職・75)

平成27年11月10日

京都新聞に掲載されました。